

ぼくの夏色

小坂井西小・6 大原 諭

朝起きて 鏡の中の ぼくを見た
真っ黒に 日焼けしていた はずなのに
夏休み 家族で海水浴をした
波に 揺られたり泳いだり
足元は砂
いつものプールとは違う
ぼくの周りには しょっぱい水
わかめや貝もいっぱい
時々 するりと魚も泳ぐ
夏の日差しの中で
ずっと 海に いたかった

海水浴の後

ホテルの温泉に入るぼく
おでこも 鼻も ほっぺたも
真っ赤で ヒリヒリ
肩も 足も
真っ赤で ヒリヒリ
温泉のお湯をかけると
さらに ヒリヒリ

せつかくの温泉

ヒリヒリしたけど 何度も入った

赤くなつた ぼくのはだ

次の日

はだの色が 黒くなつてきた

海の男

ライフセーバーのようだ

これぞ夏の黒

しかし それは長くは続かなかつた

日焼け三日目のぼくはどうした

じゃがいものような皮が

ほろほろ落ちていく

しかもまだらで 顔が破れているみたい

皮がめくれたところだけ 白くなつて

迷彩柄みたい

しまうまみたいに 白黒が そろつていたら

きれいだったのに

ちゃんと なおるのかな

日焼けをしてから 五日目

朝起きて 鏡の中の ぼくを見た

ホロホロしていた ぼくの皮

いつの間にか

皮はチヨロチヨロ ほとんどない

よし

ホロホロの皮とは 卒業だ

白と黒は

なじんで目立たない

ちよつと こわくなつたけど

これで安心

本当は もっと真っ赤な

夏色の日焼けだった

皮がめくれて

少し白くなつたけど

まだまだ日焼けが黒い

これが今年の ぼくの夏色